

# FUJIMI

in Micro Cosmos

株式会社フジミインコーポレーテッド  
株主通信・Vol.11(平成12年12月)  
(第49期中間事業報告)

Thermal Spraying Materials

Quartz Die

*Speed & Challenge*

Semiconductor

Hard Disks

**特集・フジミ50年ダイジェスト**

50周年を記念して、創業から現在までの  
歩みをご紹介します。

(P5～7 CLOSE UP)

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

## 中間連結決算ハイライト

	連結	単体	
	第49期中間期 平成12年9月30日現在	第49期中間期 平成12年9月30日現在	第48期中間期 平成11年9月30日現在
売上高	12,338	11,226	10,259
営業利益	2,441	2,225	1,959
経常利益	2,468	2,270	2,003
中間純利益	1,195	1,104	1,100
総資産	44,350	42,252	38,750
株主資本	34,706	33,551	31,404
一株当たり中間純利益(円)	76.63	70.78	70.53
一株当たり株主資本(円)	2,224.43	2,150.39	2,012.78
株主資本利益率(%)	3.4	3.3	3.5
総資産利益率(%)	2.7	2.6	2.8
株主資本比率(%)	78.3	79.4	81.0
一株当たり配当額 (FUJIMI INC.の1株当たり配当額)	12.50円	12.50円	12.50円

(注) 今中間期より、連結決算を主体とした開示を行っていますが、参考として単体の数字を記載しています。

## 平成12年度(第49期)中間連結決算のポイント

売上高は、半導体市場の世界的拡大を受けて、シリコンウェファ向け製品ならびに携帯電話をはじめとする移動体通信機器向け製品、さらにはCMP(化学的機械的平坦化)向け製品が堅調に推移しました。ハードディスク基盤用ポリシング材につきましても徐々に回復の動きが出てきております。営業経費面では、固定費やその他変動諸経費の増加を極力押さえるよう努めました結果、経常利益は24.6億円となりましたが、中間純利益は、9月の東海豪雨の被害により3.1億円の特別損失を計上したため11.9億円となりました。

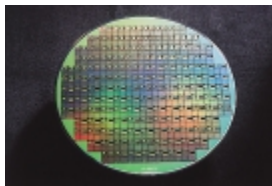
株主資本利益率は、3.4%となりました。

1株当たり中間純利益は、76円63銭となりました。中間配当金につきましては、前期と同じ12円50銭とさせていただきます。当期の設備投資額は、15.9億円となりました。これは、主に研究開発センターおよび機能材工場の新設によるものです。

## 主要用途別の製品売上高の特徴（連結）

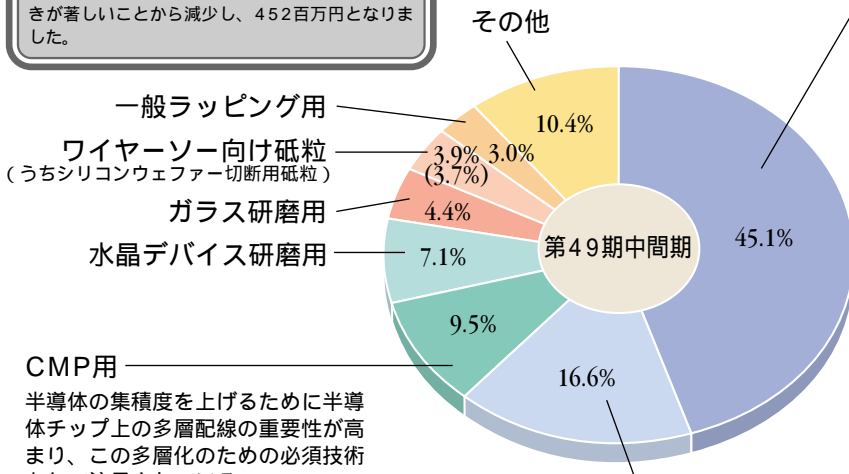
### 水晶デバイス研磨用以下その他売上高の特徴

パソコンや携帯電話などの情報通信機器市場の拡大を受けて、水晶デバイス研磨用製品は順調に売上を伸ばしました。特に高周波数化の動きに対応した細目粒度製品の出荷が好調で、売上高は812百万円となりました。ガラス研磨用はガラスディスクの堅調な伸びを受け、ラッピング材「FO」が増加した結果、売上高は502百万円となりました。ワイヤソー向け砥粒の売上高は、価格低下の動きが著しいことから減少し、452百万円となりました。



### シリコンウェファアのラッピング・ポリシング用

パソコンを中心に、OA機器やAV製品など、電子産業関連機器類の心臓部に使用されている半導体素子。この半導体素子を製造するには、シリコンウェファアに代表される半導体基板を高精度に鏡面研磨しなければなりません。フジミのラッピング、ポリシング材はこの分野で高いマーケットシェアを誇っています。



### CMP用

半導体の集積度を上げるために半導体チップ上の多層配線の重要性が高まり、この多層化のための必須技術として注目されているのがCMP(化学的機械的平坦化)。フジミのもつシリコンウェファア用のファイナルポリシング材開発ノウハウが応用展開可能な事業で、高成長が期待される分野です。



### 売上高の特徴

半導体の多層配線技術に用いられるCMP(化学的機械的平坦化)は拡大しつつある新しい市場であり、国内外のデバイスメーカーへの「PLANERLITE(ブレナライト)」の本格出荷が始まり、大幅な増収となりました。特に超高純度コロイダルシリカ製品の伸びが顕著でした。この結果、CMP用ポリシング材の売上高は1,090百万円となりました。

### ディスクポリシング用

パソコンの高機能化に伴い、プログラムやデータの高速読み出しが可能な小型・大容量メモリーのハードディスクが注目を集めています。このため、ディスク研磨についても、より高精度な水準が要求されるようになりました。フジミはこの分野でも世界的に高い評価を得ています。



### 売上高の特徴

IT投資の世界的な拡大によるパソコン、ネットワーク機器の好調な伸びに加え、携帯電話をはじめとした情報通信機器の爆発的な需要増などを受けて、シリコンウェファアならびにガリウムヒ素ウェファアといった半導体基板のさまざまな加工工程において使用される、ラッピング材「FO」や「PWA」ならびにポリシング材「GLANZOX(グランゾックス)」や「INSECK(インセック)」の出荷が大幅に増加しました。これによりウェファア用ラッピング材ならびにポリシング材の売上高は5,180百万円となりました。

### 売上高の特徴

ハードディスクのデジタル家電への搭載により需要拡大が期待されるものの、一方でディスク価格の下落や業界の再編といった動きが起っています。技術面では記録密度を向上させるためにディスク基板の高鏡面化が一層進展したことから、アルミナ系のディスクポリシング材からシリカ系の「DISKLITE(ディスクライト)Zシリーズ」へ製品シフトが進みました。この結果、ディスク用ポリシング材の売上高は1,907百万円となりました。

## 株主の皆様へ



代表取締役社長 越山 彰

株主の皆様には日頃から温かいご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

ここに当社の平成12年4月1日から平成12年9月30日までの事業報告を兼ねた株主通信第11号を送らせていただきます。

### フジミを取り巻く事業環境

さて、当社の主な事業領域である半導体業界においては、パソコン、ネットワーク機器の好調な伸びに加え、家電製品のデジタル化、携帯情報端末などの移動体通信機器の爆発的な拡大などが牽引役となり、メーカー各社の生産ラインはフル稼働の状態にあります。それにともない大型の設備投資も再開され、2003年までは2桁の成長率が続く予想されています。こう

した状況下で、当社の主力事業であるシリコンウェファー用製品の売上は大幅な増加となりました。

ハードディスク用ポリシング材につきましては、ハードディスクドライブのデジタル家電への搭載により需要拡大が期待できるものの、昨年に引き続きディスク価格の下落、ディスクメーカーの再編や事業縮小といった環境変化を受けて依然厳しい状況が続いています。

その他の製品の売上はおおむね堅調に推移しました。まず水晶用ラッピング材については携帯電話やデジタルAV機器の好調な伸びに支えられて順調に売上を伸ばしました。また成長分野として注力するCMPスラリーも、大手デバイスメーカーでの採用が本格的に進んだ結果、大幅な増収となりました。

### 21世紀に向けた挑戦

当中間期は、従来より進めてきた、21世紀をにら

#### Q & A 株主の皆様のご質問にお答えします

**Q<sub>1</sub>** 溶射材の新しい使い方、廃材利用、また現在の市場規模および将来の数字的目標について詳しく教えてください。(神奈川県 52歳 男性)

**A<sub>1</sub>** 溶射材は、主に耐摩耗、耐腐食、耐熱などの目的で使用され、その用途は自動車のエンジン回り、各種機械部品、ガスタービン、製鉄・製紙設備のロールなどがあげられます。溶射材の中でも特に注目されているサーメット(セラミックと金属の複合材)に力を入れています。また、廃材利用については、いくつか試行を進めています。フジミの溶射材「SURPREX(サープレッ

クス)」は、精密研磨材で培ったパウダーテクノロジーにより、緻密で剥離しにくい溶射皮膜を可能としており、従来の市場を超えた用途拡大を目指しています。現在の溶射材料の世界市場規模は推定500億円、2004年には1,500億円とみており、今中間期の売上高は約3,000万円、2004年3月期の目標は35億円です。

**Q<sub>2</sub>** どのような経緯で今回「ISO14001」を取得したのですか。その背景は？(神奈川県 43歳 男性)

**A<sub>2</sub>** 世界的な環境意識の高まりからであり、地球で活動を営む一員としての社会的責任からです。「ISO14001」は国際標準化機構(ISO)が定める環境マネジメントの国際規格で、環境負荷の低減を目的に、環境方針の作成から実施、見直しにいたる組織の体制や手順を規

んだ戦略的な体制を整備し、新しい体制下での事業展開が次々とスタートを切りました。今年着手した新事業、溶射材については機能材工場が完成し、規模は小さいながら着実に売上を伸ばしています。8月に完成した研究開発センターでは、シリコンウェファー、ハードディスク、CMPスラリーを中心に最先端の研究課題に取り組むべく、これまでにない最高の研究体制を整えました。また海外では、競合他社に先駆けてアセアン地域向けの生産拠点としてマレーシアに工場が完成、現地工場を持つ利点を最大限に活かし、この地域でのシェア拡大に努めます。また成長が期待されるCMPスラリーについては、生産拠点であるフジミアメリカで増設強化を図りました。昨年完全子会社化した販売会社フジミコーポレーションとの連携プレーを通して米国でのさらなる売上拡大を目指します。

当社は、今年はじめに中期経営計画として「2004年の連結売上目標400億円以上」を掲げました。かつてない大きな目標です。チャレンジなくして成功はあ

りません。年度方針である「スピード&チャレンジ」のもと、全社員の力を結集してこの大きな目標に立ち向かっていきたいと考えています。

### 今後も株主の皆様とともに

今年10月、フジミは創業50周年を迎えました。これもひとえに株主の皆様のご支援のおかげと深く感謝いたします。これからも皆様とともに歩んでいけるよう、さらなる企業価値の向上に邁進いたしますので、末長いご支援をお願い申し上げます。

平成12年12月  
代表取締役社長

越 山 彰

定したものです。環境に影響を与える要素である電気、ガスなどのエネルギー、OA紙、汚泥などについて具体的な目標を決めて低減に取り組んでいます。本年4月に発足した環境安全部を中心に、今後ともより一層の環境保全に努めてまいります。

**Q3** 半導体関連投資の活発化がいわれ、御社の業績も堅調であるのに、株価が回復しないことについてどのような見解をお持ちですか。(千葉県 53歳 男性)

**A3** 当社の株は昨年の半ば以降、ハードディスク(HD)向け製品の不振を理由として株価が低調に推移しました。これはHD業界において、記憶容量の著しい増大に伴うディスク1枚あたりの高記録密度化が進んだため、HDドライブにおけるディスク搭載枚数が激減し、

市場全体が低調に推移したためです。これに対する戦略的な取り組みとして、マレーシアに生産工場を建設、11月から生産を開始しました。ユーザーの集中するアセアン地域にて現地生産を行うことで顧客へのサービス向上を図り、この地域でのシェア拡大を目指します。

一方、HDドライブ内蔵のレコーダーがポストVTRとして登場するなど、HDのパソコン以外への用途拡大は今後徐々に進んでいくと見ています。ディスクポリシング材についても、春先から徐々に回復の動きを示しています。現在、日本株全体が米国株の調整の動きに連動しており、低調な動きが続いています。株価はあくまで市場が評価するものですが、本来的な業績の向上や明確な事業戦略により企業価値の向上に一層努めるとともに、IR活動を通じて企業価値が適切に株価に反映できるよう引き続き取り組んでまいります。

# CLOSE UP . . . フジミの事業をご理解していただくために

## 特集：フジミ50年ダイジェスト

株主の皆様のご支援により、今年10月に創業50周年を迎えました。そこで今回は、20世紀の激動の半世紀を歩んだフジミの50年を皆様とともに振り返ってみたいと思います。

### ゼロからのスタート

創業者 故 越山照次は佐賀県に生まれ、焼き物で有名な有田で陶業を学んだ後、“フジミ”の名の由来である名古屋の不二見焼合資会社〔現不二見セラミック(株)〕でタイル製造に従事しました。第二次世界大戦中、輸入が途絶えた光学、ガラス製品用の研磨微粉の製造を海軍から要請されたのが研磨材との出会いでした。

しかし敗戦により生産はあえなく中断。一時は研磨微粉生産の夢を諦めたものの、光学メーカーからの依頼を受けて研究を再開、1950年に国産品として初の人造研磨微粉の商品化に成功して、「不二見研磨材工業所」を設立しました。建物や人はおろか器材も道具も何もない、まさにゼロからのスタートでした。

「良い製品をつくるのが最大の武器になる」。越山照次は品質向上に力を注ぎ、ロングセラー商品「FO」を開発。57年にはソニー(株)の前身である東京通信



1957年当時の本社工場

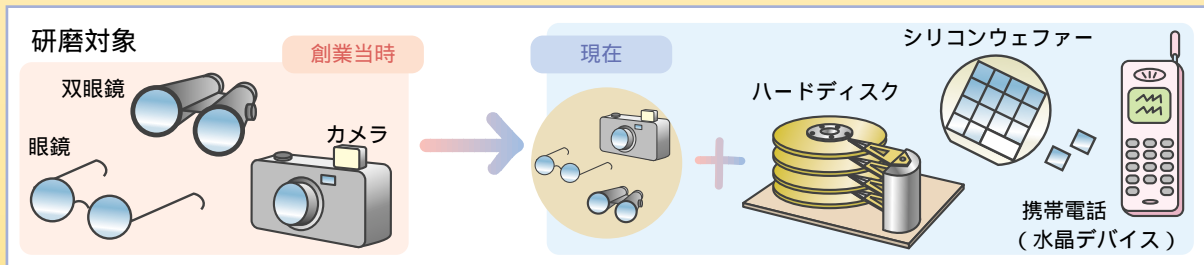


現在の本社

工業(株)においてトランジスタの材料であるゲルマニウム用の研磨材として「FO」が正式に採用されました。これが今日にいたる半導体業界進出へのきっかけとなったのです。

### 「世界のフジミ」への道

65年頃から、半導体業界ではゲルマニウムからシリコンへ転換が図られていました。電子工学を学んだ現在の会長 越山勇を中心に開発を進め、67年にはシ



リコン用ポリシング材で世界初の商品「GLANZOX(グランゾックス)」が誕生、画期的な商品として収益の柱を担うようになりました。折りしも日本は高度成長期の真っただ中。65年から69年にかけてのフジミの成長率は

年率25%以上と驚くべきものでした。この頃フジミ製品は半導体産業に欠かせないものとなり、国内だけでなく「世界のフジミ」へと発展を遂げていきました。

79年、越山勇が社長に就任。社業発展のため、海外展開の必要性を痛切に感じていた新社長は84年に米国の営業拠点フジミコーポレーションを設立したのを皮切りに、米国の生産拠点としてフジミアメリカ、アジアの営業拠点としてフジミマイクロテクノロジー(マレーシア)を次々と設立。北米・アジアでの本格的なグローバル展開を実現しました。同時にフジミインコーポレーテッドに社名を変更、株式の店頭公開も果たしました。精密研磨材分野の発展に多大に貢献し、フジミを世界に通じる一流企業に育て上げた越山勇は96年に科学技術庁長官賞、97年には黄綬褒章を受賞しています。

## 21世紀に輝く企業となるために

98年、現社長の越山彰が社長に就任。就任直後から半導体市場の低迷など厳しい経営環境が続く中、「攻めの経営姿勢」により、将来をにらんだ設備投資に積極的に取り組んでいます。今年国内で研究開発センター、機能材工場、海外でフジミマイクロテクノロジー・クリーム工場が相次いで完成。岐阜県のVRテクノジャパン内に設置した研究開発センターでは、研究員を結集してシリコンウェファーやハードディスク、CMPの加工

### 年間売上高の変化



### フジミの歩み

- 1950年 国産初の人造精密研磨材「FO」の生産開始
- 1957年 東京通信工業(株)現ソニー(株)のゲルマニウムウェファー用研磨材ニーズに対応
- 1967年 シリコンウェファー用ポリシング材「GLANZOX(グランゾックス)」を発売
- 1984年 フジミコーポレーション(米国イリノイ州)設立
- 1988年 フジミアメリカ(米国オレゴン州)設立
- 1990年 ディスク用ポリシング材「DISKLITE」を開発
- 1995年 株式公開(店頭登録)  
CMPスラリーの開発本格化  
フジミマイクロテクノロジー(マレーシア)設立
- 1999年 国内の全生産拠点が「ISO9001」の認証取得
- 2000年 国内の全生産拠点が「ISO14001」の認証取得  
研究開発センター、機能材工場、マレーシア・クリーム工場の完成

技術など最先端の研究課題に取り組んでいます。また企業としての社会的責任を果たすべく、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証も取得しました。

この50年はフジミの飛躍の歴史でした。しかし企業として真価が問われるのはむしろこれから。「真にグローバルで従業員一人ひとりが誇りのもてる企業を目指す」を目標にフジミの躍進はこれからも続きます。

## 現地社長にきく 海外今昔物語

アメリカそしてアジアで活躍するグループ3社。文化の異なる世界でそれぞれビジネスを切り開いてきた3人の社長の知られざるエピソードをご紹介します。

### フジアメリカ 澤井務社長

「フジミの技術者のレベルの高さに感銘を受けて入社した」と語る澤井社長。「1990年に入社して半年はセールスをやっていました。しかも研磨材以外の商品の売り込みだったので企業のリストを手に電話アポや手紙、直接訪問といった全くの新規開拓。振り返ってみると大変でした」。96年の社長就任から、現在2カ所ある現地工場を一本化するマスタープランを立て進行中。「毎年セールスで15%アップが目標。フジミコーポレーションと一体となってアメリカ全土をカバーするビジネスがしたい」。生産だけでなくユーザーニーズに直結した研究開発にも取り組み「フジアメリカ発の開発商品も今後増えると思います」。



プロフィール

米国スリーエム社を経て1990年にフジアメリカ入社。96年、社長に就任。



プロフィール

フジミ本社営業部での海外部門を経て2000年にフジミコーポレーション社長に就任。

### フジミコーポレーション 関敬史社長

現在100%子会社のフジミコーポレーションは1984年、米国の研磨機メーカーとの合併で設立され、当初は研磨材と研磨機のセット販売を行っていました。「今思うと、お互いの製品の付加価値を高めるトータルなソリューションの提供でした。当時としては先進的な考えですね」と語る3代目の関社長。日頃の営業スタイルは「4人の営業マンで全米を4分割するテリトリー制、営業マンが一同に会するのは年に一度だけ」。毎日電話やメールで情報交換を行うので距離感は感じないとのこと。アメリカはCMPでは最先端。「情報を入手する機能、マーケティング機能がフジミコーポレーションにますます求められている」と語っています。

### フジマイクロテクノロジー 石井和廣社長

「マレーシアは独自の風習・慣習があり、外資100%による企業設立は困難でした。そのため事情に精通した現地の投資家との合併でスタートしました」。「(フジミの)製品を大量に買ったがいらなくなったので引き取ってほしい」。99年の石井社長就任後まもなく起こったできごと。「引き取っても転売先がなければ廃棄処分。そのとき思いついたのが「現地工場づくり」でした」。本社に発注すると納品まで一カ月半かかるのでタイムリーにニーズに対応できません。「マレーシアに生産拠点を!」と本社にも働きかけた結果、クーリム工場が今年誕生することになったのです。



プロフィール

フジミ本社で生産技術部、営業部海外担当を経て99年、フジマイクロテクノロジー社長に就任。

## 中間連結貸借対照表

### 流動資産

流動資産は前期末比12.2億円増加しました。売掛金、棚卸資産の増加のほかに中間期末日が休日だったことにより、受取手形の未決済分が5.3億円含まれていることによります。

### 固定資産

当中間期は、当社の研究開発センターおよび機能材工場等の新設により、設備投資額は15.9億円となっております。固定資産のうち有形固定資産は6.8億円の増加となりましたが、無形固定資産は減価償却が進んだことにより0.7億円の減少となりました。また、投資等では、非連結子会社への投資として3.7億円を計上しております。

### 負債

流動負債は、前期末比15.1億円増加しました。中間期末日が休日だったことによる支払手形の未決済分3.4億円を含んでいることのほか、買掛金、未払法人税等の増加および水害損失引当金1.1億円の計上などによるものです。固定負債は、退職給付会計制度の導入により退職給付引当金6.1億円を計上し、前期までの退職給与引当金より0.5億円の増加となりますが、長期借入金の約定弁済による2.2億円の減少を主因として2.1億円の減少となりました。

### 株主資本

利益の内部留保により、株主資本は7.5億円増加しましたが、株主資本比率は2.0ポイント減少し、78.3%となりました。

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

第49期中間期

平成12年9月30日現在

資産の部	
流動資産	25,382
現金及び預金	4,989
受取手形及び売掛金	8,937
棚卸資産	3,066
その他流動資産	8,417
(貸倒引当金)	28
固定資産	18,967
有形固定資産	16,232
無形固定資産	504
投資その他の資産	2,231
資産合計	44,350
負債の部	
流動負債	7,854
支払手形及び買掛金	3,604
短期借入金	934
その他流動負債	3,315
固定負債	1,789
長期借入金	573
その他	1,215
負債合計	9,643
資本の部	
資本金	4,753
資本準備金	5,038
連結剰余金	25,004
その他有価証券評価差額	5
為替換算調整勘定	84
資本合計	34,706
負債及び資本合計	44,350

## 中間連結損益計算書

### 売上高

シリコンウェファァー用ラッピング材およびポリシング材は半導体市場の拡大により堅調に推移し、CMP(化学的機械的平坦化)も大きく売上を伸ばしました。ハードディスク用ポリシング材の売上高も前期よりは大きく減少しましたが、持ち直しの機運も出てきております。商品は半導体設備投資需要の高まりにより研磨機等機械の売上が順調に推移いたしました。

### 営業利益

売上高の堅調な推移により売上原価率は好転しました。販売費及び一般管理費のうち人件費、減価償却費などの固定費の増加はありましたが、営業利益は24.4億円となりました。

### 経常利益・当期純利益

経常利益率が前期より改善し、24.6億円を計上いたしました。中間純利益は11.9億円となりましたが、これは9月の豪雨水害額3.1億円を水害損失金として特別損失に計上したためです。なお、株主資本利益率(ROE)は3.4%となりました。

(単位: 百万円、百万円未満は切り捨てています。)

第49期中間期  
平成12年4月1日から  
平成12年9月30日まで

売上高	12,338
売上原価	7,900
販売費及び一般管理費	1,997
営業利益	2,441
営業外収益	67
受取利息/配当金	34
その他	32
営業外費用	39
支払利息	35
その他	3
経常利益	2,468
特別利益	36
特別損失	465
税引前当期純利益	2,040
法人税、住民税及び事業税	965
法人税等調整額	121
中間純利益	1,195

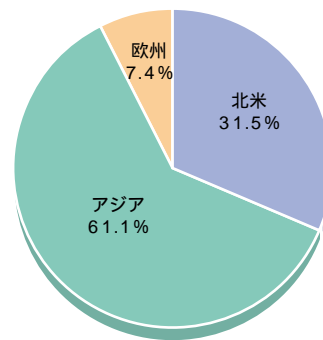
### 所在地別売上高 (百万円)

	第48期	第49期中間期
国内	20,446	10,334
北米	1,951	2,004

### 海外売上高 (百万円)

	第48期	第49期中間期
海外売上高	8,775	5,872
海外売上高の連結売上高に占める割合(%)	39.2	47.6

### 海外地域別売上高



\*各区分に属する地域の内訳は次のとおりです。  
北米: 米国、カナダ  
アジア: 台湾、タイ、シンガポール、マレーシア、韓国、中国  
欧州: イギリス、デンマーク、ドイツ

## 中間連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

第49期中間期  
平成12年4月1日から  
平成12年9月30日まで

### 営業活動による キャッシュフロー

営業活動の結果得られた資金は、11.1億円となりました。これは主に売上債権の大幅な増加(19.5億円)および在庫の増加(2.3億円)があったものの、堅調な売上により税金等調整前中間純利益が20.4億円となったことなどによるものです。

### 投資活動による キャッシュフロー

投資活動の結果使用した資金は16.5億円となりました。これは主に有形固定資産取得(13.6億円)によるものと、フジマイクロテクノロジーへの投資(3.7億円)によるものです。

### 財務活動による キャッシュフロー

財務活動の結果使用した資金は5.2億円となりました。これは主に借入金の返済(2.5億円)および配当金の支払(2.7億円)によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高は、期末日が休日だったことによる受取手形の未決済および売掛回収の月ずれなど、売上債権が一時的に大幅増加した結果、10.9億円減少し、127.9億円となりました。

営業活動によるキャッシュフロー	1,111
税金等調整前中間純利益	2,040
減価償却費	907
連結調整勘定償却額	81
売上債権増減額	1,955
仕入債務増減額	922
棚卸資産増減額	239
その他	253
小計	2,011
利息及び配当金の受取額	34
法人税等の支払額	899
その他	35
投資活動によるキャッシュフロー	1,656
有価証券の取得による支出	205
有価証券の売却による収入	272
有形固定資産取得による支出	1,362
関係会社株式取得による支出	378
その他	18
財務活動によるキャッシュフロー	529
短期借入金の純減少額	114
長期借入金の返済による支出	372
配当金の支払	273
現金及び現金同等物に係る換算差額	17
現金及び現金同等物の増加	1,093
現金及び現金同等物期首残高	13,887
現金及び現金同等物期末残高	12,793

(注) 連結キャッシュフロー計算書における現金及び現金同等物は、手元現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクが負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

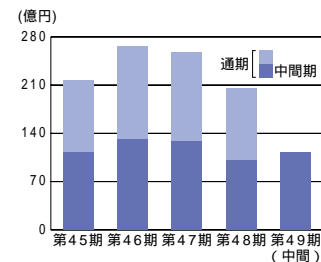
## 中間単体決算の概要

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

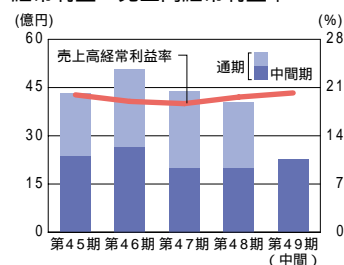
中間損益計算書	第47期中間期 平成10年4月1日から 平成10年9月30日まで	第48期中間期 平成11年4月1日から 平成11年9月30日まで	第49期中間期 平成12年4月1日から 平成12年9月30日まで
売上高	12,882	10,259	<b>11,226</b>
売上原価	9,379	6,793	<b>7,337</b>
販売費及び一般管理費	1,472	1,506	<b>1,663</b>
営業利益	2,031	1,959	<b>2,225</b>
営業外収益	67	60	<b>53</b>
営業外費用	104	16	<b>7</b>
経常利益	1,994	2,003	<b>2,270</b>
特別損益	9	11	<b>428</b>
税引前中間純利益	2,003	2,015	<b>1,841</b>
法人税及び住民税	830	—	—
法人税、住民税及び事業税	—	914	<b>866</b>
法人税等調整額	—	—	<b>128</b>
中間純利益	1,173	1,100	<b>1,104</b>
前期繰越利益	399	328	<b>467</b>
中間未処分利益金	1,572	1,428	<b>1,571</b>

中間貸借対照表	第47期中間期 平成10年9月30日現在	第48期中間期 平成11年9月30日現在	第49期中間期 平成12年9月30日現在
資産の部			
流動資産	23,696	23,515	<b>23,786</b>
固定資産	14,723	15,235	<b>18,465</b>
資産合計	38,419	38,750	<b>42,252</b>
負債・資本の部			
流動負債	7,649	5,619	<b>7,248</b>
固定負債	1,369	1,727	<b>1,452</b>
負債合計	9,019	7,346	<b>8,701</b>
資本金	4,753	4,753	<b>4,753</b>
法定準備金	5,234	5,282	<b>5,341</b>
剰余金	19,412	21,368	<b>23,461</b>
有価証券評価差額金	—	—	<b>5</b>
資本合計	29,400	31,404	<b>33,551</b>
負債及び資本合計	38,419	38,750	<b>42,252</b>

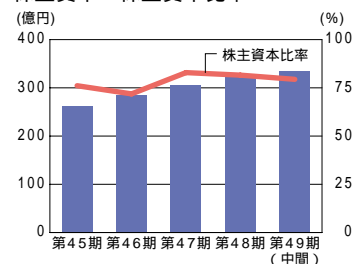
### 売上高



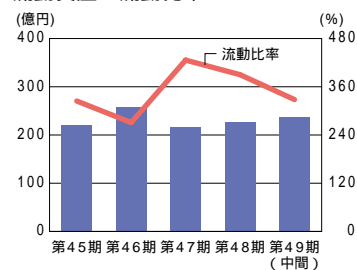
### 経常利益・売上高経常利益率



### 株主資本・株主資本比率



### 流動資産・流動比率



\* 第45～48期は年度末の数値、  
第49期は中間期末の数値となっています。

## 研究開発センターが完成

今年9月、岐阜県各務原市のVRテクノジャパン内に研究開発センターが竣工しました。計画を含め総投資額46億円の同センターは敷地面積が10,436m<sup>2</sup>、建物は二階建ての研究棟と三階建ての業務棟からなります。ここでは当社の研究員を集結、最新の機械設備を導入し、シリコンウェファー、ハードディスク、CMPを中心に高精度な加工技術の開発など最先端の研究テーマに取り組むほか、新分野の研究開発拠点としての機能も担います。



研究開発センター

## 東海豪雨による被害のご報告

9月12日に東海地方を襲った記録的な豪雨により、本社工場などが全面浸水の被害を受けました。一時的に操業停止となったものの、全社を挙げての復旧作業により、同月27日に操業再開いたしました。幸いなことに人的被害はなく、被害金額も約3億円にとどまりました。株主の皆様には大変ご心配、ご迷惑をおかけいたしました。今後はこれを教訓に全社的な危機管理体制の強化に取り組んでいきたいと思っております。

## マレーシア工場が操業開始

マレーシアのケダ州クーリム地区にある先進工業団地内に生産工場が完成し、10月より操業を開始しました。ここでは現地ユーザー向けにディスクラリーを生産しています。現地工場を置くことでリードタイムが飛躍的に短縮、今後はコスト面、納期面で優位性を確保し、よりきめの細かいサービスを提供していきます。また日本から輸入した粉碎・分級済みの原料をもとに、現地では加工(ミキシング)のみ行うため、最終製品の在庫圧縮が実現、製品切替えにともなうリスクが大幅に軽減されることになりました。



マレーシア・クーリム工場

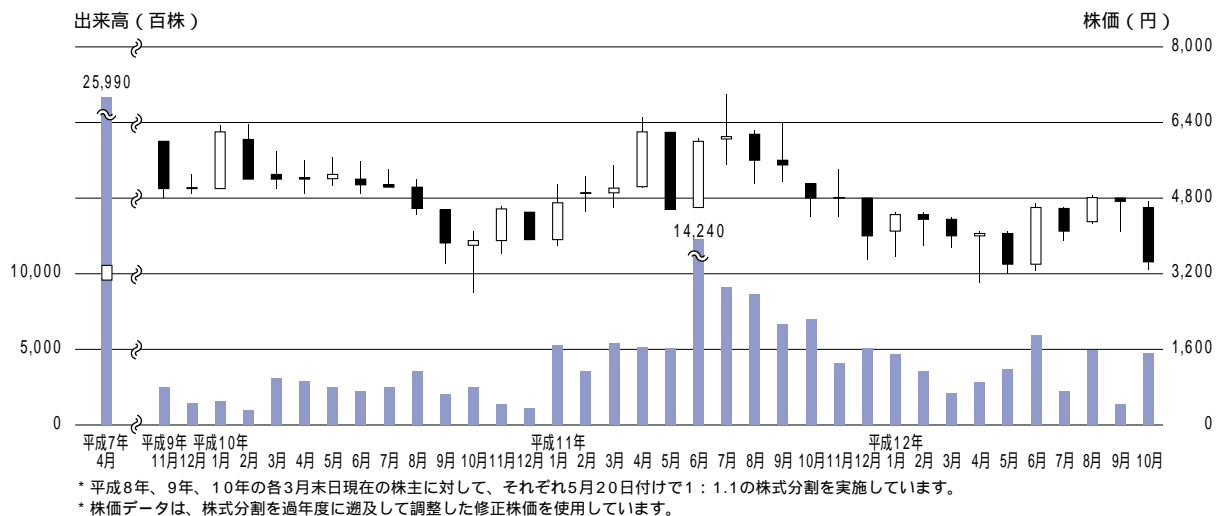


代表取締役会長 越山 勇

## 50周年祝賀パーティを開催

創業50周年を迎えるにあたり、10月に名古屋マリオットアソシアホテルで祝賀パーティを執り行いました。日頃の感謝を込めて、国内および海外から取引先企業、取引業者をはじめ、当社の発展を支えていただいた関係者総勢350名を招待したもので、会場では50年の歩みをまとめたビデオの上映も行いました。

## 修正株価および出来高の推移



## 株価の推移比較（フジミ・日経平均・店頭平均）



\* 毎月の終値を、フジミが店頭公開した平成7年4月の株価（4月の終値）を1として指数化しています。フジミの株価が市場全体の動きに比べて、どのように変動しているかを示しています。

## 会社データ (平成12年9月30日現在)

### 商号

株式会社フジインコーポレーテッド

### 証券コード

5384

### 本社所在地

愛知県西春日井郡西枇杷島町地領2丁目1番地の1  
TEL. 052-503-8181(代表)

### 設立年月日

昭和28年3月20日

### 資本金

4,753,438,500円

### 代表者

代表取締役社長 越山 彰

### 従業員

375名

## 役員

代表取締役会長	越山 勇
代表取締役社長	越山 彰
専務取締役	中村 定夫
取締役	樋渡 利雄
取締役	藤本 俊之
取締役	久保 昌昭
取締役	永利 正
取締役	児玉 一志
常勤監査役	新家 秀孝
監査役	池本 富春
監査役	山口 正三
監査役	大矢 晃

## 株主メモ (平成12年9月30日現在)

### 株式の状況

#### 株式数

会社が発行する株式の総数 ..... 40,000,000株  
発行済株式総数 ..... 15,602,450株  
株主数 ..... 5,300名

### 大株主

株主名	持株数	持株比率
越山 勇	1,934,155株	12.4%
野田 純孝	1,693,400	10.9
株式会社あさひ銀行	779,992	5.0
有限会社コマ	577,180	3.7
越山 彰	530,700	3.4
ピーピーエイチフォーフィデリティージャパン	499,000	3.2
スモールカンパニーファンド	427,400	2.7
東洋信託銀行株式会社	408,200	2.6
三菱信託銀行株式会社	406,025	2.6
株式会社東海銀行	389,940	2.5
日本生命保険相互会社		

### 決算期

3月31日

### 配当金交付株主確定日

3月31日

### 基準日

3月31日

### 1単位の株式の数

100株

### 公告掲載新聞

日本経済新聞

### 名義書換代理人

東京都中央区日本橋茅場町  
1丁目2番4号

日本証券代行株式会社

### 同事務取扱場所

名古屋市中区栄  
3丁目8番8号

日本証券代行株式会社  
名古屋支店

### 同取次所

日本証券代行株式会社  
本店・各支店および各出張所



**株式会社フジミインコーポレーテッド**

お問い合わせ先：経営企画室企画課  
TEL：052 - 503 - 8181 (代表)  
ホームページアドレス：<http://www.fujimiinc.co.jp>